



令和7年(2025年)1月28日(火)

広島市安佐動物公園 TEL 082-838-1111 川田 (木曜日休園)

広島市植物公園 TEL 082-922-3600 富澤 (金曜日休園)

広島市森林公園こんちゅう館 TEL 082-899-8964 百野 (水曜日休園)

安佐動物公園、植物公園、こんちゅう館 調査研究活動などの成果を発表します！

公益財団法人広島市みどり生きもの協会の安佐動物公園、植物公園、森林公園こんちゅう館では、下記のとおり共同で「研究活動発表会」を開催します。

動物や植物、昆虫を長期にわたり飼育・栽培するためには基礎的な研究が必要で、3園館でも日常的に研究活動を行っています。その研究成果はそれぞれの機関誌などで発表や展示に関する工夫を凝らして、市民のみなさんにお伝えしていますが、今回の発表を通じて、さらに広く市民の皆様へ伝えたいと考えています。

この発表会では、3園館で得られた研究成果の中から、より市民へ紹介したい事例について発表します。

記

1 発表会名

「第20回 安佐動物公園・植物公園・こんちゅう館研究活動発表会」

2 日 時

令和7年2月2日(日) 14:00~16:00

3 会 場

5-Days こども文化科学館アポロホール
(広島市中区基町5番83号)

4 申 込 等

当日、13時30分から会場で受付。入場無料。

5 内 容

14:00 開会・協会理事長(荒瀬 尚美)あいさつ

14:05 こんちゅう館発表

・「学んでつくる企画展～「美しいチョウの世界」ができるまで～」
(技師 久我 立)

14:45 植物公園発表

・「バラの品種保存について」
(係長 泉川 康博)

15:25 安佐動物公園発表

・「マルミミゾウ「メイちゃん」の妊娠とその経過～日本初出産にむけての道のり～」
(課長補佐 野田 亜矢子)

16:00 閉会

※発表の詳細は別添資料参照

第20回 安佐動物公園・植物公園・こんちゅう館

研究活動発表会

3つの施設の職員が、日々の仕事の中から見つけた気付きやそれを発展させて行った研究結果等を、市民の皆様に分かりやすく紹介します。



日時：令和7年2月2日（日）14：00～16：00
（開場13:30、入場無料）

会場：5-Days こども文化科学館アポロホール
（広島市中区基町5番83号）

講演演題

学んでつくる企画展～「美しいチョウの世界」ができるまで～
森林公園こんちゅう館 技師 久我立

バラの品種保存について
植物公園 栽培・展示課 係長 泉川 康博

マルミミゾウ「メイちゃん」の妊娠とその経過～日本初出産における道のり～
安佐動物公園 飼育・展示課 課長補佐 野田 亜矢子

※公共交通機関を利用してお越しください。

主催：公益財団法人 広島市みどり生きもの協会

問合せ先：広島市安佐動物公園 TEL082-838-1111

学んでつくる企画展～「美しいチョウの世界」ができるまで～

森林公園こんちゅう館 技師 久我 立

こんちゅう館では年に5回、企画展を開催しています。各企画展は職員1名が主担当となって準備をしています。今年度は春に企画展「美しいチョウの世界」を実施することになったのですが、主担当の私は普段バツタを専門としており、チョウについては全くの素人でした。そのため、チョウの勉強をするところから企画展の準備をはじめました。

チョウについて学ぶにつれて、様々な気づきや発見があり、こうした気づきや発見を取り入れながら展示をつくりました。企画展の中心であった標本展示では、最近発表された分子系統解析の結果を参考に、広島県のチョウと世界のチョウの標本を整理しなおしました。チョウは翅の色や模様が特徴的なため、「美しい翅の秘密」というコーナータイトルで、翅に注目した仕掛けのある展示づくりにも挑戦しました。幼虫の生体展示では、幼虫が食草にとまってエサを食べ続ける性質を利用し、ケースを介さずに展示しました。こうしたチョウの素人だから着想できた(?)工夫のおかげもあり、企画展では多くの来館者に楽しんでいただくことができました。

本発表では、チョウに関する知識がほぼ0の状態から、どのように学びながら展示をつくっていったのかをご紹介します。

バラの品種保存について

植物公園 栽培・展示課 係長 泉川 康博

バラは、最も人気のある園芸植物の一つです。毎年数多くの新品種が発表されカタログを賑わす一方で、売れ行きが落ちた古い品種はいつのまにかひっそりと消えていきます。植物公園では、民間による生産販売が途絶えた品種を含む希少な古品種を、数多くコレクションとして保有しています。しかし、バラは木本性植物としては比較的短命で、品種保存を行うためには、接木などの栄養繁殖法により株を更新する必要があります。

植物公園では、1シーズンに台木150～200本規模でバラ苗の自家生産を行っており、展示株の更新やバックアップ用の鉢株として活用し、品種保存を行っています。

しかし、この数年間、穂木を採取した元株が枝枯病や根頭癌腫病などに汚染されていた場合、接木生産した新株に高い確率で病気をもち越してしまうという、栄養繁殖ならではの問題に直面していました。そこで、通常は接ぎ穂に用いない未熟枝を穂木として利用し、一方の台木も、通常接ぎ木に用いる茎の直下の太い部分ではなく、さらに下方の細い部位を台木として使って接木するなど、既知の方法によらない接木を行ったところ、病気の持ち越しが大幅に減少し、健全苗の育成に一定の改善が見られることが分かりました。

マルミミゾウ「メイちゃん」の妊娠とその経過～日本初出産にむけての道のり～

安佐動物公園 飼育・展示課 課長補佐 野田 亜矢子

昨年の本研究発表会では、安佐動物公園で飼育しているマルミミゾウの雌「メイ」と、雄「ダイ」が2023年12月8・9日に無事初交尾に至ったことを報告しました。この2回の交尾の後、周期的であったメイの発情がみられなくなりました。哺乳類の繁殖に関する行動は、ホルモンの働きで起こります。発情の停止は、それまでとは異なるホルモンの変化が起きた証拠で、メイが妊娠している可能性があることを示していました。継続採取していた血液中のホルモン値を調べたところ、12月の交尾後、妊娠を維持するためのホルモンが高値のままであることが判明しました。半年経過後もホルモン値が下がらなかったことから、胎仔が大きくなるのを待ち、7月29日に初めての超音波診断装置による検査（エコー）を行ないました。この時には確認できませんでしたが、2度目の診断を行なった8月14日には、初めて胎仔らしいものが映り、妊娠を公式発表しました。ゾウの妊娠期間は650日ほどです。来年8月、遅くとも10月までには仔ゾウが誕生する予定です。今後継続して、エコーやホルモン値のモニタリングを実施し、貴重なマルミミゾウ繁殖の記録・研究を行ないたいと思います。